

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	きめ細やかな指導、個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学ぶ力・生きる力向上支援員」等も活用し、英・数の授業で可能な限り複数指導の形態を取った。ただ、多くの制限もあり、全体的かつ継続的な形になっていない。</li> <li>ネット配信教材を活用し、個々の学力レベルを考慮した教材づくりに取り組んだ。また各生徒にもそれらを利用する補充学習への参加を呼びかけた。</li> <li>夏季授業日を習熟度別の編成で取り組んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数指導を目指す教科の教員の加配や支援員の継続配置等を教育委員会にしっかりと要望し、基本的な指導体制づくりに努力する。</li> <li>学習カルテの機能をさらに高め、それに基づく指導をさらに充実させることで、個々の学力向上に努力する。</li> <li>来年度も夏季授業日は習熟度別学習に取り組み、個々の生徒のニーズに合うように工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボン太モン教室の取組を見学したが、自分が理解できていない所や取り組みたい所に戻ってすぐに復習でき、映像と音声で解説してもらえる仕組みに感動した。</li> <li>ボン太モン教室の存在が生徒の中にしっかりと浸透し有効な活用ができているので、学力向上に関して今後、大きな期待が持てる。</li> </ul>
	確かな学力の育成と分かる授業推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市でも初となる補充教室「ボン太モン教室」を実施し、個々の生徒の学力向上を目指すとともに、塾等へ通えない生徒への学力保障に取り組んだ。あくまでも自主的な活動だが、全体への浸透には工夫が必要である。</li> <li>授業評価アンケートを実施し、分かる授業に向けて各教科担任が生徒の視点を中心に改善に取り組んだ。まだまだ具体的な取組が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボン太モン教室の取組をさらに発展、充実させ補充体制を強化することで学力の向上につなげる。</li> <li>教室にプロジェクターを整備し、「マルチメ解説」を授業の導入に活用するなど、I T Cの側面から学校全体で新たな取組を展開する。</li> <li>授業評価アンケートの結果を、直接授業改善に結び付けるために教員個々の具体的な研修を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボン太モン教室の充実を図り、自宅で予習できるシステムを確立すれば成果は大きくなるのではないかと。</li> <li>プロジェクターを全教室に設置したことはすばらしい。視覚教材の活用を促進し、これまでなかなか理解が進まなかった生徒の手助けにしてほしい。</li> <li>プロジェクターを活用した授業は生徒にとっても好評なので、より多くの教科で活用できるようにしてほしい。</li> <li>数学・英語の複数指導や習熟度別授業に関して希望する声は大きい。先生の数的な問題はあと思うが工夫して取り組んでほしい。</li> </ul>
	楽しい学校づくり いじめのない学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校行事に生徒の主体的な活動な取り入れ、達成感や充実感を得ることができるよう工夫した。強力なリーダー養成には至っていない。</li> <li>教育相談やアンケートを通じて、生徒の実態の把握に努め、特にいじめやラインの問題について力をいれた。現状から判断すると、この取組は大きな成果をあげている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自主性がさらに高まるようにリーダーの養成に力を入れる。そのためにリーダーが活躍できる雰囲気や場面をしっかりとサポートする。</li> <li>生徒や保護者から信頼される関係づくりに努力し、よりの確かな情報を得ることができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめが非常に少なくなっているのは評価できる。しかし、いじめは見えにくいので、単にふざけているのか区別できないこともある。細かな面談やアンケートの工夫などで対応してほしい。</li> </ul>
実教職員を磨き、学高校める魅力と	校内研修の充実 教員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各アンケート結果や今日的な教育課題等のタイムリーな話題を研修テーマに設定し、より効果的な研修を目指した。しかし、最終的には、教員個々の意識の問題でもあり、全体的な改善は難しい。</li> <li>指導に関する課題をすぐにフィードバックできるようにP T A組織も大きく変更し、その体制づくりに取り組んだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修に対して意欲的になれるように、課題に関する個人の責任をできるだけ明確にする。</li> <li>学校評価アンケートの集計や分析により多くの教員が関与するように工夫する。</li> <li>O J Tに主眼を置き、実際の学校生活の中から生きた教材として学ぶようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との面談を通して、本多聞中全体としては先生方の頑張りを生徒は感じ取っている。しかしその分、評価がシビア(授業がわからない、おもしろくない)になる先生の動きが大きな課題となるのではないかと。</li> <li>プロジェクターの導入もそうであるが、生徒のために工夫している教科とそうでない教科が結構はっきりしている。様々な理由があるかもしれないがそのあたりについて、すべて先生に取り組んでほしい。</li> <li>ミマモルメでの情報発信は保護者にとっても大切なツールとなっている。</li> <li>アンケート結果をタイムリーに公開してもらえたことで生徒の実情を的確に知ることができた。また学校も結果に対する対応が素早く、アンケートが有効に活用されている。</li> </ul>
	評価活動に基づくP D C Aの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>7、12月の授業評価、10月末の保護者による授業評価、11月の全体的な学校評価等を必ず冬休み前までに集計・分析を加え、共有し3学期に反映させる。同一年度内での振り返りがP D C Aの原動力となっている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート疲れ、評価疲れに注意しながらも課題等を先送りせず、できるだけ早く改善策にチャレンジするための体制や組織を作る。</li> </ul>	
	情報発信の充実 学校HPやメールの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年HPの更新回数を飛躍的に増やし、内容も生徒や保護者のニーズをできるだけ配慮した。閲覧数も確実に増加している。</li> <li>学校メール「ミマモルメ」を活用し、必要な情報を的確に発信することができた。保護者からも好評評価を得ている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会状況から情報伝達としてHPや学校メールが有用であることは間違いなく、逆に活用しなければならなくなっている認識が必要である。来年度は校内の担当を増やすなどさらに充実させる。</li> </ul>	
特色ある神戸の教育を更に発展させ	人間関係力、コミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習や行事を通して、集団性や仲間意識を高める取組を展開したが、まだまだ十分とは言えない。</li> <li>生徒会を中心に、啓発活動や募金活動等に積極的に取り組んだ。ただ、全校生徒への啓発にはさらなる工夫が必要である。</li> <li>11月より新たに、プロのお笑い芸人によるコミュニケーション能力向上の取組を実施した。その効果については検証中である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や要望をしっかりと見極め、タイムリーな教材を通して、生徒の積極性を引き出したい。そのためには再度、教材や取組の見直しが必要である。</li> <li>芸人によるコミュニケーション能力向上講座は内容をもう少し工夫し、来年度も継続する。費用については未定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉本芸人によるコミュニケーション能力養成講座は生徒にとって大きな刺激となり、学校の雰囲気づくりに貢献している。</li> <li>生徒の状況を見極めて、指導に生かしていこうとする姿勢は高く評価できる。</li> <li>P T Aボランティアによる図書室開放は大きな前進である。制度を定着させ、生徒の活用をさらに促進しなければならない。</li> <li>図書室については、本の整理やレイアウトなど生徒が活用しやすい状況を目指してほしい。</li> </ul>
	学校図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>かねてから開館時間を延長してほしいとの要望があり今年度P T Aボランティアの協力を得て、実現した。</li> <li>蔵書の整理、部屋のレイアウト変更など図書室の充実に関してはまだまだ大きな課題が山積している。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T Aボランティア有志による図書室開室の取組はとても大きなものであったので、来年度に向けてさらなる工夫を加え、継続させる。</li> <li>教員の担当を複数化し、長年懸案であったことについては、来年度中に改善にむけて取り組む。</li> </ul>	
市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	家庭や地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭には、HPやメールで効果的な情報伝達をし、P T A組織の改編に伴って、情報がすぐに学校に伝わる体制を構築するなど、連携は確実に強化されている。</li> <li>様々な地域行事に、中学生が積極的に参加・活躍し、年々、必要とされる在になっている。さらに内容を工夫し有意義なものにすることが大切である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報伝達に関しては、さらに内容を充実させながら生徒や保護者のニーズに応える。</li> <li>地域連携をさらに継続していくためにも、現状の中学生ボランティアの充実や逆に地域の方々による学習ボランティアの募集にもチャレンジする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生の地域行事への参加がお客さんから一員へと変化し、頼もしいかぎりである。さらに地域の一員として成長してほしい。</li> <li>地域活動についてよく頑張ってくれているので、可能なものは中学生にリーダーシップを取って活性化させたい。</li> </ul>
	P T A活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動の停滞、マンネリ化、学級委員の選出の不調等のへの対応として、組織の大改革を行った。まだまだ試行錯誤の連続であるが、方向としては順調に推移しつつある。</li> <li>できるだけ形式的な活動を廃止し、学校運営に実質的に関与するための組織を目指し、大きな組織変更を実施したが、本部役員はもとより、多くの方々の理解と協力を得て、進めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>改革初年度での取組を総括し、本来の狙いである新しいP T Aを目指して、取組を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T Aへの情報伝達はしっかりとできているが、もっともっと多くの保護者を巻き込んでほしい。</li> <li>P T A組織の大改革はとても好評であった。より実質的な活動を目指してほしい。ただ、一般の保護者への浸透に関してはまだまだ課題があるので、そのあたりの改善が必要である。</li> </ul>